

地域共生社会を目指した取り組み

富山県認知症介護指導者 吉野 英樹

キーワード: 福祉防災マップ作成・全世代対象の地域移動カフェ
社会福祉法人連携事業 小学校での福祉教育
多職種連携会議・ユニバーサル雇用(福祉的就労)

活動の概要(活動の主体:法人として)

【活動目的】

活動の目的は地域住民がたとえ、病気や障害、認知症になっても安心して暮らせる街づくりです。

【活動内容】

私が所属する「社会福祉法人宣長康久会」では地域共生社会を目指し、私たち専門職のみで実践するのではなく必ず、地域住民と共に取り組んでいくことに重点を置いている。今までの活動は6つで「地域移動カフェ」「福祉防災マップ作り」「多職種連携会議」「社会福祉法人の連携」「小学校での福祉教育」「ユニバーサル雇用(福祉的就労)」である。

活動のきっかけ、背景(法人の地域部門責任者としての立場で)

地域包括支援センター職員として地域住民と関わっていく中で、住民は慣れ親しんだ地域で住み続けたけれど、地域に後継者がいないということに悩んでいることがわかった。その為、社会福祉法人の公益的取組みの一環として安心して住み続けることができる地域づくりの活動を開始した。また認知症介護指導者としても、地域で実践を続けていきたいという思いも強かった。

活動の経過と成果

【活動の経過】

令和元年7月より「ユニバーサル雇用」を1名の就労から開始。また同月に障害者施設と「社会福祉法人連携事業」として合同勉強会を開始。同年10月から翌年2月にかけて短大生と「福祉防災マップ」を作成。同年11月に短大生と「地域移動カフェ」を開始(合計4か所で実施)。令和2年2月より中学校での福祉教育を開始。同年7月より「小学校での福祉教育開始」。同年9月に地域の専門職との「多職種連携会議」開催。同年10月にICT機器を用いた徘徊模擬訓練を行政と共同開催する。

【活動の成果】

地域住民より、「困っているの、一緒に企画してほしい」「また地域移動カフェを開催してほしい」などの声が多数聞かれるようになった。地域と顔の見える関係を築くことができ、地域づくりについて一緒に考えて下さることが出来ている。これは法人の理念「私たちは、皆さまが安心して幸せな生活を、住み慣れた地域で営んでいただくために貢献していきます」と活動が一致しており、理解と協力を得ている。また、富山県内の社会福祉法人の公益的取組みの実践として最も活発に実施している法人の一つとしての評価も頂いている。



今後の展望

住み慣れた地域で住み続けたいという思いを実現にするためには、まだまだ様々な支援が必要である。現在地域住民と検討していることは●ハイブリット型の通いの場●買い物支援●社会福祉法人と学校、地域の連携事業●小学校の福祉教育の充実化を図る ことである。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。